

# 京都市京セラ美術館

## 開館記念展

# 「京都の美術 250年の夢」

最初的一步：コレクションの原点

第1部 江戸から明治へ：近代への飛躍

第2部 明治から昭和へ：京都画壇の隆盛

第3部 戦後から現代へ：未来への挑戦

## 企画書

## 1. 趣 旨

京都市美術館は、1933年に「大正記念京都美術館」の名称で、「明治四十年以後」すなわち文部省主催美術展(文展)が創設された1907年以降に制作された「新美術品及び新美術工芸品」を展示する現代美術館として開館しました。

1926年開館の東京府美術館(現在の東京都美術館)に続く、日本で二番目の公立美術館でしたが、東京都美術館の旧館は取り壊されたため、現存する最古の公立美術館の建築物となります。今回の全面改修工事では、本館の建築意匠を最大限に保存しながら、21世紀に対応した高い機能性を持った美術館に生まれ変わります。

本展は、2020年春のリニューアルオープンにあたっての記念展として、これまでの美術館を回顧するとともに、新しい美術館を展望する上で、京都市美術館のコレクションの真髄である「京都の美術」を総合的に紹介する展覧会になります。

はじめに、開館記念展の開催に先立つ特別企画として「最初の一步：コレクションの原点」を開催します。そして、日本文化の伝統と創造の中心地である京都の近代の出発点となった明治維新を基軸として、過去と未来に渡る約250年間の歴史を彩った数々の名品(日本画, 工芸を中心として, 洋画, 彫刻, 版画, 書)を集大成し、総計400点を超える大規模な企画として、三部構成による連続した展覧会を開催します。

## 2. 展覧会名・会期 [開催日数]・会場

開館記念展「京都の美術 250年の夢」

### 1) 最初の一步：コレクションの原点

2020年3月21日(土)～4月5日(日) [14日] / 北回廊1階

### 2) 第1部：江戸から明治へ：近代への飛躍

2020年4月18日(土)～6月14日(日) [51日] / 北回廊1階

### 3) 第2部：明治から昭和へ：京都画壇の隆盛

2020年7月11日(土)～9月6日(日) [51日] / 北回廊1階

### 4) 第3部：戦後から現代へ：未来への挑戦

2020年10月3日(土)～12月6日(日) [57日] / 北回廊1・2階

## 3. 主 催

京都市

NHK 京都放送局, 毎日放送, 朝日放送, 関西テレビ, 読売テレビ, テレビ大阪,  
KBS 京都, 朝日新聞, 産経新聞, 日本経済新聞, 毎日新聞, 読売新聞, 京都新聞

## 4. 後援・協賛

未定

# 「最初の一步：コレクションの原点」

2020年3月21日(土)～4月5日(日) [14日]

北回廊1階 [約1,000㎡]

## 1. 趣旨

本展は、京都市美術館が開館3年目(1935年)に初めて開催した「本館所蔵品陳列」に出品された京都市美術館の原点となるコレクション(全47点)を一挙に紹介するものです。

当時のコレクションの内訳は、日本画(22点)、工芸(10点)、洋画(10点)、彫刻(5点)ですが、開館記念展の大礼記念京都美術館展や第15回帝展、第21回院展の出品作品から美術館が収集(購入)した作品(38点)に加えて、美術館建設を推進した大礼奉祝会や作家から寄贈された作品(9点)が含まれています。

京都市美術館のコレクションの「最初の一步」がどのような内容であったのかを85年前に遡って鑑賞することで、新たな出発をする京都市美術館のコレクションの将来への「夢」を描いてもらおうという企画です。

## 2. 主な出品作家・作品

1)	榊原紫峰	《獅子》	1927年	第6回国画創作協会展	日本画
2)	中村大三郎	《ピアノ》	1926年	第7回帝展	日本画
3)	福田平八郎	《菊》	1928年	第9回帝展	日本画
4)	菊池契月	《散策》	1934年	第15回帝展	日本画
5)	太田聴雨	《種痘》	1934年	第21回院展	日本画
6)	岡田三郎助	《満州記念》	1934年	大礼記念京都美術館展	洋画
7)	小磯良平	《踊りの前》	1934年	大礼記念京都美術館展	洋画
8)	服部喜三	《古陶》	1934年	大礼記念京都美術館展	洋画
9)	石本暁海	《在りし日の黙雷禅師》	1933年	第14回帝展	彫刻
10)	五代清水六兵衛	《大礼磁仙果文花瓶》	1926年		工芸
11)	津田信夫	《英雄闘志  鑄銅軍鶏置物》	1934年	大礼記念京都美術館展	工芸
12)	徳力彦之助	《流線型的なる置時計》	1934年	大礼記念京都美術館展	工芸

# 第1部 「江戸から明治へ：近代への飛躍」

2020年4月18日（土）～6月14日（日）[51日：前期・後期]

北回廊1F [約1,000㎡]

## 1. 趣旨

第1部では、明治から昭和にかけて全盛期を迎えた京都の日本画壇の源流となった円山応挙の写生画や与謝蕪村の文人画の時代まで遡って、「近代への飛躍」の歩みを辿ります。

近代以降の「京都の美術」を展望する上において、これまでのように近代の動向を紹介するだけでなく、江戸期まで遡って、京都における江戸美術の精華を踏まえて、江戸後期の沈滞から幕末の動乱と明治維新の衝撃によって混乱する社会・経済状況を乗り越えて、新たな出発を始める京都画壇の近代化の過程を「江戸から明治へ」と連続的に回顧することで、その変化と継続を明らかにします。

## 2. 主な出品作家

### 1) 江戸の絵画：

与謝蕪村 (1716～1783) / 伊藤若冲 (1716～1800) / 池 大雅 (1723～1776)  
曾我蕭白 (1730～1781) / 円山応挙 (1733～1795) / 松村呉春 (1752～1811)  
長澤芦雪 (1754～1799)

### 2) 江戸の工芸：

陶芸：初代清水六兵衛 (1738～1799) / 奥田穎川 (1753～1811)  
青木木米 (1767～1833) / 仁阿弥道八 (1783～1855) / 永楽保全 (1795～1854)  
漆芸：長野横笛 (生没年不詳) / 佐野長寛 (1794～1856)

### 3) 明治の日本画：

塩川文麟 (1808～1877) / 森 寛斎 (1814～1894) / 田能村直入 (1814～1907)  
岸 竹堂 (1826～1897) / 富岡鉄斎 (1836～1924) / 幸野樸嶺 (1844～1895)  
鈴木松年 (1848～1918) / 菊池芳文 (1862～1918) / 竹内栖鳳 (1864～1942)  
都路華香 (1870～1931) / 山元春挙 (1872～1933) / 上村松園 (1875～1949)  
木島桜谷 (1877～1938) / 菊池契月 (1879～1955) / 西山翠嶂 (1879～1958)

### 4) 明治の工芸：

陶芸：三代清風与平 (1851～1914) / 7代錦光山宗兵衛 (1868～1927)  
初代伊東陶山 (1846～1920)  
漆芸：初代木村表齋 (1818～1885) / 富田幸七 (1854～1910)  
七宝：並河靖之 (1845～1927) / 金工：紹美栄祐 (1839～1900)  
染織：二代川島甚兵衛 (1853～1910) / 十二代西村總左衛門 (1855～1935)

### 5) 明治の洋画：

田村宗立 (1846～1918) / 伊藤快彦 (1867～1942) / 浅井 忠 (1856～1907)  
都鳥英喜 (1873～1943) / 鹿子木孟郎 (1874～1941) / 太田喜二郎 (1883～1951)

### 6) 江戸から明治の書：

貫名海屋 (1778～1863) / 篠田芥津 (1821～1902) / 巖谷一六 (1834～1905)

## 第2部 「明治から昭和へ：京都画壇の隆盛」

2020年7月11日（土）～9月6日（日）[51日：前期・後期]

北回廊1F [約1,000㎡]

### 1. 趣旨

第2部では、明治から昭和戦前期にかけて全盛期を迎えた京都の日本画壇をはじめとして、工芸、洋画、彫刻、版画、書まで本格的な活動が展開された「京都の美術」の精華を紹介します。

日本画では、竹内栖鳳を中心として東京画壇に対抗する京都画壇が形成されるとともに、若い世代は西洋近代美術に触発されて国画創作協会を結成するなど旺盛な活動が展開されました。工芸でも個性を重視した自由な制作が目指され、第8回帝展に美術工芸部門が新設された頃には、五代清水六兵衛などが活躍するとともに、若い工芸家たちの団体が登場して、新しい工芸を探究しました。柳宗悦が提唱した民芸運動も京都に端を発し、河井寛次郎などが活躍しました。洋画では、浅井忠が関西美術院を創設して京都の洋画壇を確立するとともに、日本の超現実主義運動を代表する画家北脇昇も登場しました。

このように正統と革新が併存して展開する「京都の美術」の懐の深さをご覧ください。

### 2. 主な出品作家

#### 1) 日本画：

竹内栖鳳 (1864～1942) / 山元春挙 (1872～1933) / 上村松園 (1875～1949)  
菊池契月 (1879～1955) / 西山翠嶂 (1879～1958) / 富田溪仙 (1883～1936)  
橋本関雪 (1883～1945) / 土田麦僊 (1887～1936) / 村上華岳 (1888～1939)  
小野竹喬 (1889～1979) / 堂本印象 (1891～1975) / 福田平八郎 (1892～1974)  
徳岡神泉 (1896～1972) / 池田遥邨 (1895～1988) / 中村大三元 (1898～1947)

#### 2) 工芸：

陶芸：5代清水六兵衛 (1875～1959) / 6代清水六兵衛 (1901～1980)  
河村蜻山 (1890～1967) / 楠部彌弼 (1897～1984) / 澤田宗山 (1881～1963)  
漆芸：神坂雪佳 (1866～1942) / 迎田秋悦 (1881～1933)  
奥村霞城 (1893～1937) / 番浦省吾 (1901～1982) / 徳力彦之助 (1905～1996)  
木工：黒田辰秋 (1904～1982) / 染織：山鹿清華 (1885～1981)  
染色：皆川月華 (1892～1987) / 刺繍：岸本景春 (1888～1975)

#### 3) 洋画・版画：

鹿子木孟郎 (1874～1941) / 黒田重太郎 (1887～1970) / 梅原龍三郎 (1888～1986)  
安井曾太郎 (1888～1955) / 須田国太郎 (1891～1961) / 北脇昇 (1901～1951)

#### 4) 彫刻：

石本暁曠 (1888～1935) / 松田尚之 (1898～1995)

#### 5) 書：

山本竟山 (1863～1934) / 内藤湖南 (1866～1934) / 北大路魯山人 (1883～1959)

## 第3部 「戦後から現代へ：未来への挑戦」

2020年10月3日（土）～12月6日（日）[57日：前期・後期]

北回廊1F+2F [約2,000㎡]

### 1. 趣旨

第3部では、敗戦による価値観の転換によって日本画、工芸、書の伝統が問い直され、戦後の激動のなかで再出発するとともに、1960年代以降には世界的な潮流の影響から現代美術が登場して、現在までの多様多彩な展開を見せる「京都の美術」の動向を回顧します。

日本画では、戦前から活躍する画家たちが自己の芸術を深化させる一方で、若い画家たちによって創造美術（後の創画会）やパンリアル美術協会が結成され、新しい日本画表現が探究されました。1980年代には会派を越えて結成された「横の会」が現代の日本画を開拓しました。工芸でも、若い陶芸家たちによって四耕会や走泥社が結成され、伝統工芸の用を越えた前衛的な作品（オブジェ）が探究されるなど、伝統の継承と新たな表現の創造の葛藤のなかで多様な創作が行われ、1970年代にはファイバーワークが登場しました。洋画でも、若い画家たちによって行動美術協会が結成され、社会的な主題を持った絵画が指向されました。書においても、抽象美術との関係において前衛書が登場しました。

### 2. 主な出品作家

#### 1) 日本画：

小野竹喬（1889～1979）／堂本印象（1891～1975）／福田平八郎（1892～1974）  
徳岡神泉（1896～1972）／池田遥邨（1895～1988）／山口華楊（1899～1984）  
上村松篁（1902～2001）／小松均（1902～1989）／秋野不矩（1908～2001）  
下村良之介（1923～1998）／大野倣嵩（1922～2002）／麻田鷹司（1928～1987）

#### 2) 工芸：

陶芸：富本憲吉（1886～1963）／河井寛次郎（1890～1966）  
楠部彌弼（1897～1984）／6代清水六兵衛（1901～1980）／近藤悠三（1902～1985）  
八木一夫（1918～1979）／山田光（1924～2001）／鈴木治（1926～2001）  
漆芸：番浦省吾（1901～1982）／東端真符（1913～1978）／鈴木雅也（1932～2013）  
染織：小合友之助（1898～1966）／稲垣稔次郎（1902～1963）／  
高木敏子（1924～1987）

#### 3) 洋画・版画：

須田国太郎（1891～1961）／北脇昇（1901～1951）／伊谷賢蔵（1902～1970）  
伊藤久三郎（1906～1977）／今井憲一（1907～1988）／三尾公三（1923～2000）  
吉原英雄（1936～2007）／黒崎彰（1937～2018）／井田照一（1941～2006）

#### 4) 彫刻：

堀内正和（1911～2001）／清水九兵衛（1922～2006）

#### 5) 書：

中野越南（1883～1980）／日比野五鳳（1901～1985）／森田子龍（1912～1998）